

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成20年度発生予察技術情報第4号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

## 平成20年度技術情報第4号

果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）の誘殺数が5月第6半旬に薩摩川内市東郷町で増加し、一部の地域で果樹園への飛来が確認された。今後、気温（夜温）の上昇にともない、果樹園へ飛来し、吸汁加害する恐れがあるので、注意が必要である。

**1 対象作物** ナシ、ウメ、モモ、ハウスミカン、ビワ等

### 2 情報の根拠

- （1）予察灯への誘殺数が5月第6半旬に増加し、薩摩川内市東郷町でツヤアオカメムシが366頭（平年20頭）、チャバネアオカメムシが179頭（平年43頭）が誘殺された（表1）。
- （2）一部の地域で露地栽培のカンキツ、ナシ園への飛来が認められ、薩摩川内市ではナシ園で果実の被害が確認された。
- （3）秋に発生が多かった場合は翌年春期の誘殺数は多い傾向にある。垂水市、薩摩川内市東郷町、出水市で昨年9～10月の誘殺数が多かったことから、今後越冬成虫がスギ・ヒノキへ移動するまでの間飛来が多くなる可能性が高い。
- （4）チャバネアオカメムシの越冬量は0.08頭/m<sup>2</sup>（前年0.00頭/m<sup>2</sup>、平年0.19頭/m<sup>2</sup>）で前年よりも多かった（図1）。
- （5）ツヤアオカメムシのイヌマキ樹冠内での越冬量は、出水地域で多い傾向であった（図2）。

### 3 防除上注意すべき事項

- （1）カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるので、特に収穫期に近い樹種では園内の発生状況の把握に努める。
- （2）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類やカイガラムシ類の発生を助長するので連用を避け、ネオニコチノイド系薬剤と交互に使用する。
- （3）チャバネアオカメムシの被害の多いほ場では、黄色蛍光灯（波長500～600nm）を集団点灯すると飛来防止効果が高い。
- （4）果実への袋かけや網目4mmの防虫網を被覆することで被害の軽減を図る。
- （5）カメムシ類の移動は夜温（最低温度14℃以上）が高くなると活動が活発になる。
- （6）カメムシ類の好適な餌植物であるヒノキ、スギの球果量が多い場合は、7月以降、新成虫の発生が多くなる可能性があるため注意する。

<参考資料>

表1 予察灯におけるカメムシ類の誘殺状況（4～5月）

ツヤアオカメムシ

半旬	垂水市		南さつま市 <sup>1)</sup>		いちき串木野市 <sup>2)</sup>		薩摩川内市 <sup>3)</sup>		出水市		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
5月	1	162	195	4	16	21	32	7	4	71	153
	2	30	128	1	18	12	62	8	10	33	80
	3	0	86	3	10	2	17	22	4	28	25
	4	3	81	0	26	0	59	9	7	10	47
	5	18	33	3	20	10	36	38	24	29	20
	6 <sup>4)</sup>	136	19	36	23	31	111	366	20	99	27

チャバネアオカメムシ

半旬	垂水市		南さつま市 <sup>1)</sup>		いちき串木野市 <sup>2)</sup>		薩摩川内市 <sup>3)</sup>		出水市		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
5月	1	95	22	0	3	2	4	18	100	3	17
	2	22	16	0	5	1	14	6	34	5	17
	3	1	28	0	4	0	2	7	10	5	9
	4	0	26	0	11	1	17	10	3	2	8
	5	9	10	0	5	2	25	9	103	0	8
	6 <sup>4)</sup>	130	8	0	5	4	104	179	43	0	5

注：1) 南さつま市加世田，2) いちき串木野市市来町，3) 薩摩川内市東郷町

4) 5月第6半旬の誘殺数は，5月26日～31日までの数値である。

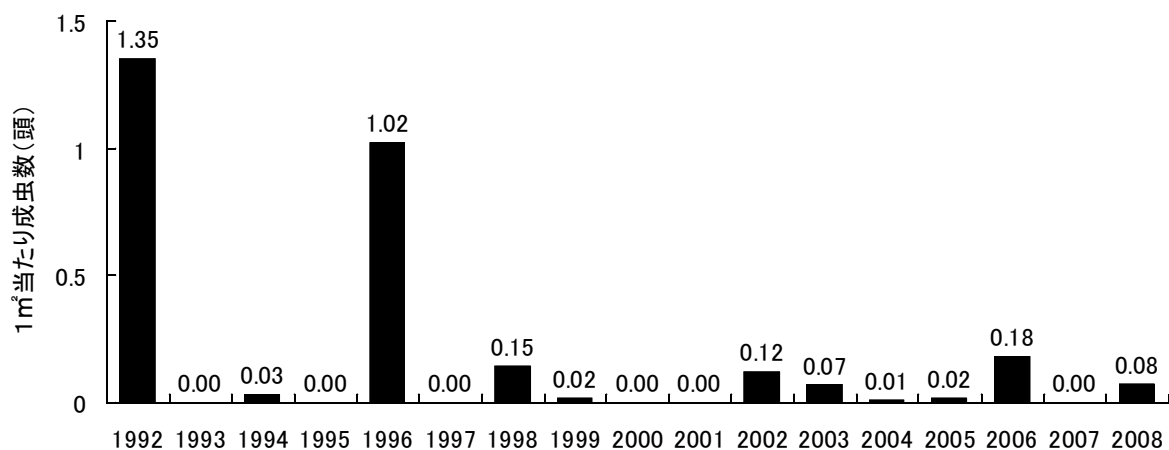


図1 チャバネアオカメムシ越冬量の年次推移

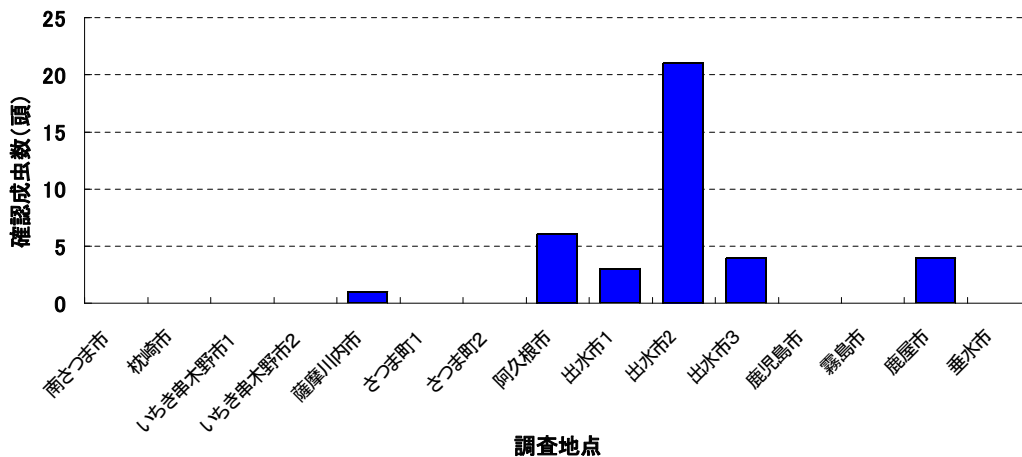


図2 ツヤアオカメムシの越冬状況（平成20年1月：イヌマキ樹冠内調査）